

拝啓 12月も早や下旬、今年も残り少なくなりました。お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園では、落ち葉が沢山きれいに積っていきまして、犬が喜んでその中を歩きます。

今月は、石館守三先生の『はまなすの小道』の3回目です。今回の「自然科学の進歩と倫理性」という文章で、石館先生は、自然科学者としての立場と信仰者としての立場について述べられ、自然科学者に研究の価値を与えるものは信仰であると述べられます。サラリーマンにとっても、仕事や人生に価値と意味を与えるものは信仰であると言えるでしょう。この文章は、元は昭和33年に発行された東大聖書研究会編『信仰と生活の中から』に収められた文章です。

石館守三先生が遺されたオープンリールの証言テープをCDROMに変換し、希望者に配布するという一種の伝道は、18セットもの求めがあり、目下私の大きな仕事になっています。今回第4期で、オープンリールのテープ第31巻から第40巻までをCDROMに変換します。CDROMで18枚になります。それにしても、小西先生が、筆できちんと、テープの箱に日付、題名、聖書箇所を書いて下さったおかげで、内容が分かり、CDROMに変換ができました。

11月27日には、南原先生の出身校である香川県三本松高校で、生徒500人、先生30人、卒業生20人という大きな聴衆を前に、「南原繁先生の生涯から学ぶ」と題して講演をする機会を与えられました。パワーポイントを使って、高校生向けに、友情や志を強調して1時間5分話しました。生徒さんが一生懸命聞いてくれました。後で、生徒さん約10名と懇談会があり、質疑応答を受けましたが、これもよい時間でした。講演後、少人数で懇談会をもつという方法は、南原先生が、地方に講演に行かれた時のやり方でした。

6月にYMCAで講演をさせて頂いたものですから、12月14日(土)久しぶりに東大YMCAのクリスマスに参加しました。船本弘毅先生の「東方で見た星」という題の講演があり、祝会では、学生さんの合唱やイエス降誕劇があり、昔を思い出しなつかしく、大変楽しい祝会でした。頂いた資料の中にクリスマスカードがあり、家に帰って開いて見ました所、寄宿舍舎生全員が、短い言葉を書いて下さり、多くの方が、南原先生の講演が印象的でしたという趣旨のことを書いて下さっており、感激いたしました。

12月22日(日)の今井館・高円寺東集会では、いつもの小西先生のエペソ書講解に加えて、石館守三先生の昭和41年のクリスマス証言を聞き、久しぶりに出席下さった畑中至純さんも加わり、霊的な集会をもつことができました。

それでは、皆様、お身体に気をつけられ、よいお年をお迎え下さい。敬具

平成25年12月25日

山口周三

エンカウターの読者各位